

笑顔と

神奈川県立金沢支援学校

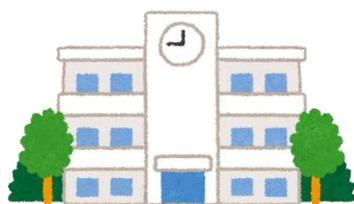
やさしい心



学校だより

かなざわ

第 204 号 令和 6 年 9 月 25 日



地域とともに考える安全防災

校長 伊藤 美加

今年の夏も本当に暑かったです。

それに加えて日々の雷を伴う局地的なゲリラ豪雨や通常と違うルートで次々とやってくる大型台風、そして全国各地で大きい地震が続きました。

連日のようにテレビやネットのニュースでは「南海トラフ」「相模トラフ」「異常気象」などが話題に上がり、今まで以上に安全や防災について考えさせられることの多い夏でした。

本校は金沢区の臨海地区にあり、大きな地震の際には津波被害が考えられます。また分教室は本校と離れているため、いざというときに本校とは違った被害となることを想定しておかなければなりません。

災害はいつ起きるかわかりません。児童生徒が学校にいる時間帯だったら？登下校中だったら？校外学習に行っている学年があったら？・・・学校はさまざまな状況を想定し、それに備える必要があります。



本校ではこの夏「地域とともに考える安全防災」の一環として、『DIG訓練』と『車いす引き上げ訓練』に地域の方とPTA役員さんをお呼びして、安全防災について共に学び考えていただく機会としました。

いざというとき、この学校でどのような災害が想定されるのか、そのときどんな助けが必要となるかを一緒に具体的に考えて体験したことにより、参加された地域の方や保護者のみなさんの安全防災に対する意識が今まで以上に高まったと思います。

参加してくださったみなさま、お忙しい中ご協力ありがとうございました。

今後も他県・他校の先進的な取組を参考に、地域の方々や保護者のみなさんのお力を得ながら、児童生徒も一緒に考え、体験し、学習できる安全防災教育を工夫して進めていきたいと思ひます。



B 部門高等部紹介



本校

4月に31名の1年生を迎え、2年生29名、3年生27名、総勢87名で今年度の高Bが始まりました。1年生は、入学当初は新しい仲間との学校生活に少し緊張している様子が見られた生徒もいましたが、4月が終わる前には教室や廊下で楽しく遊ぶ姿も見られ、元気に学校生活を送っています。2、3年生は1学期に校内実習や現場実習がありました。昨年度までの経験を活かし、目標を意識して取り組む生徒たちの姿に先輩としての成長が見られました。

また、各学年の授業では校外学習などの事前学習で各クラスやグループでタブレット端末を使用して行き先について調べたり、動画を見てイメージを深めたりするなど、それぞれの生徒に応じた学習なども行っています。校外学習が近づきますと、各学年の廊下などに生徒たちが調べた成果物なども掲示されますので、授業参観や面談などの際によろしければご覧ください。

今年度も保護者等の皆様と一緒に協力して、生徒一人ひとりの自立と社会参加に向けて成長を支援していければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(高B学部長 小原 俊祐)

分教室

15名の新生を迎え、2年生15名、3年生15名、総勢45名でスタートしました。

今年度から、職業の授業を「手工芸班」「環境整備班」「事務サービス班」の3つの作業班に分け、3学年縦割りで活動し、3年間ですべての班を経験します。

「手工芸班」はスウェーデン刺繍やクロスステッチに取り組み、コースター作りを行っています。

「環境整備班」は横浜氷取沢高校図書館の書架清掃や地域のケアプラザの館内清掃等を行っています。「事務サービス班」は、シール貼りや資料作り等、企業等からの受注作業を中心に行っています。

縦割りで活動をとおして、他学年同士仲良くなれたり、3年生が後輩の手本として頑張ったり、1年生が先輩の正しい言葉遣いを真似したり等、良い点が見られるようになってきました。

学校生活の中で様々な経験をすることで、自立と社会参加に向け、成長してほしいと思います。

(横浜氷取沢分教室長 新船 正次)